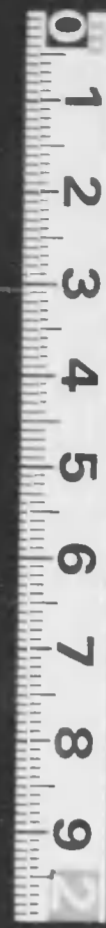


週寫
報眞

情報局編輯
六月十一日 第七百二十七號

昭和十一年六月十一日 星期一 第七百二十七號





目今、あつても、轟を音響が機載して、世のそと生機操つ立地に行業目首
 ちみてつ取組を原機操つるや、は、勢が官致、發出あき、大練訓い、刺かえし

い、喜、つ、持、翼

理研明室映寫幕

踏、至、聖、道、不、驚、
 奇、面、非、明、
 獨、行、遠、道、可、也、



即、興、理、化、學、研、究、所、創、製

發、賣、元



理化學興業株式會社

本、社、東、京、市、麹、町、區、有、樂、町、一、ノ、三、電、話、銀、座、(57) 7611 (10)
 出、張、所、大、阪、・、名、古、屋、・、新、京、・、本、天、・、北、京

翼持っ喜び

戸松縣葉千 所成養員乘央中局空航

僕たちが空の推進力になるの
だ。開けゆく東亞の航空路が僕
たちを招いてゐる。アジアの空
を思ひ切り翔ひまはるぞ。迅
しい希望が若い翼に盛れてゐる

ドイツがあの驚異的な戦果を擡にしてゐるのも、航空力の充實を目指して早くから國民全體が空への憧れを實踐に移してきたからだ。空を征服する民族こそ新しい世代へ大きな飛躍を試みることができる唯一の資格者であることを思ふとき、若人よ！空に伸びよと、心から叫ばざるを得ない。

で、わが國の軍事航空が遂に世界の水準を抜くものであることは、はつきりわかつた。だが、或ひは軍航空の母體となり、また、軍航空の準備第二種ともなるべきわが民間航空は世界列強に比してまだくの感がある。そして東亞共榮圈の確立を前にして、東亞の航空路は、心から若人の進出を待つてゐるのだ。

空だ！ 男の行くところ。そして拓け東亞の航空路。航空局では、凡ゆる施設を整へて、民間輸送を背負つて立つ若人たちの養成に努力してゐる。——讀物 十頁参照

航空局中央乗員養成所は、地方乗員養成所の修業期間を経て二等操縦士となり陸軍航空隊備下士官の教育を終つた生徒に最後の仕上げを施すところである。

一等操縦士の技倆を十分に保有させるために、まづ練習場による盲目飛行の訓練が始まる。そして相當な気温の中を二、三時間は極度の暑さでも飛行できるだけの技倆に達すると、大型實用機による本格的な盲目飛行の訓練に移る。これと平行して空中航法は理論、無線は理論、天候予報り大部分の教育はこれと費されて、航法の技倆は一段と向上する。

このやうに航法の學理と實際を併せ修得して始めて、如何なる航路も突破し得る立派な航空輸送担当者育成されるのである。



中國海軍 第一期生



白鉢巻も甲斐々々しく生徒の勉勵鼓動
任中國海軍部長の岸本十雄兵、端正な服
装、嚴格な姿勢にはわが海軍の精神を思は
せるものがある



中華民國國民政府では中國海軍の再建を指して鋭意その幹部養成に力をつくしてきたが、日華軍官協力甲斐があつて五月二十一日には上海にある中央海軍學校の第一期生が中國海軍士官候補として華々しく海に巣立つた

卒業式には汪主席代理上海市長陳公博氏、行政院長代理海軍部長任援道氏、軍事委員會委員長代理軍事訓練部長蕭叔宣氏、大河内支那方面總參謀長、武田上海特別陸戰隊司令官など多數の日華要人が出席して、それら未來の提督たちを祝賀したが、將來中國海軍を背負つて立つ三十五名の卒業生の雄爽たる姿は頼母しい限りであつた

艦上の新しい砲術訓練

大河内海軍中將の祝辭



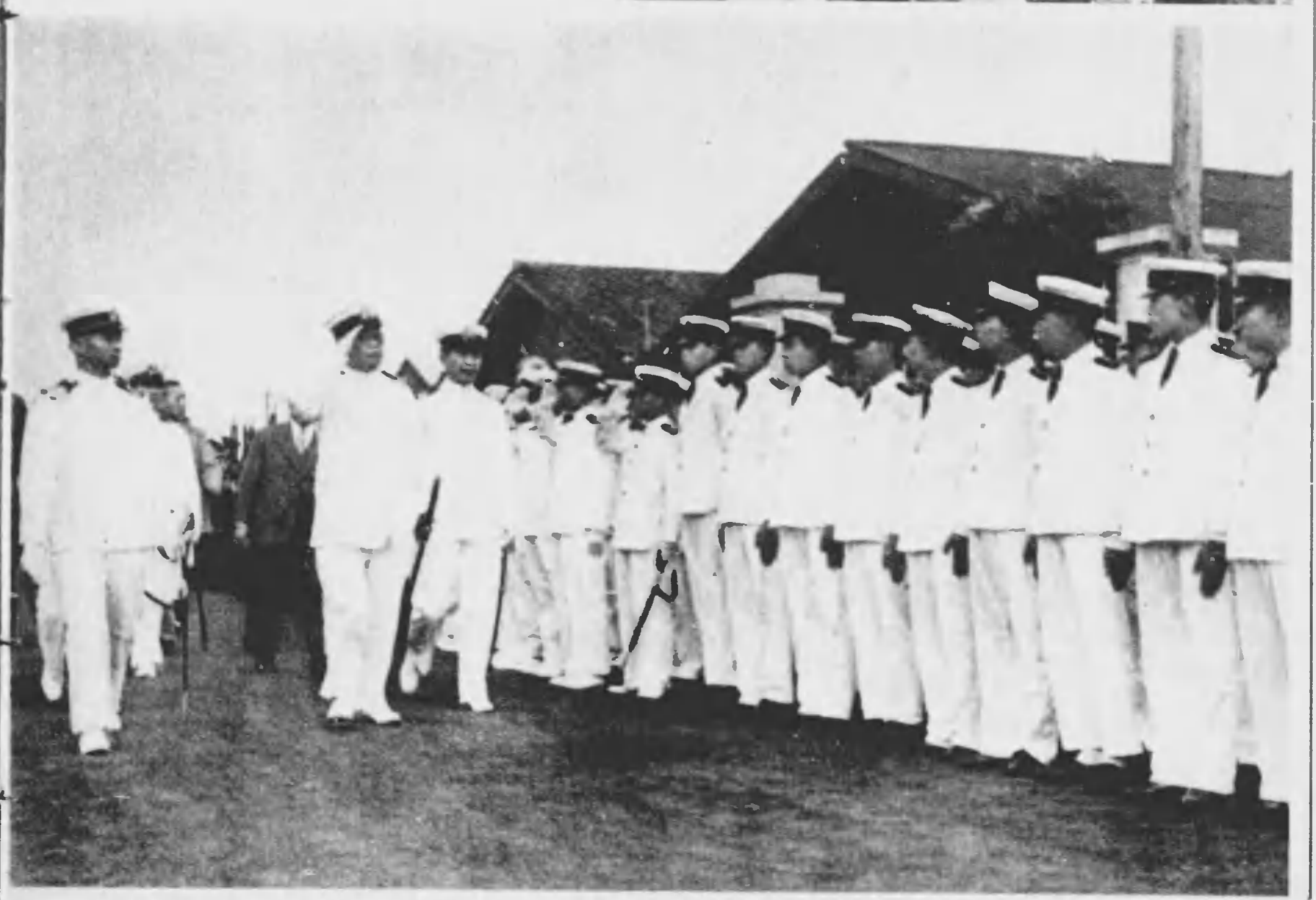
上海市長陳公博氏の祝辭



撮影 支那方面艦隊報道部

二年の鍛錬を終つて今日こそ晴れて海に
乗出す日、多感な青年の感激をこめて校
歌合唱

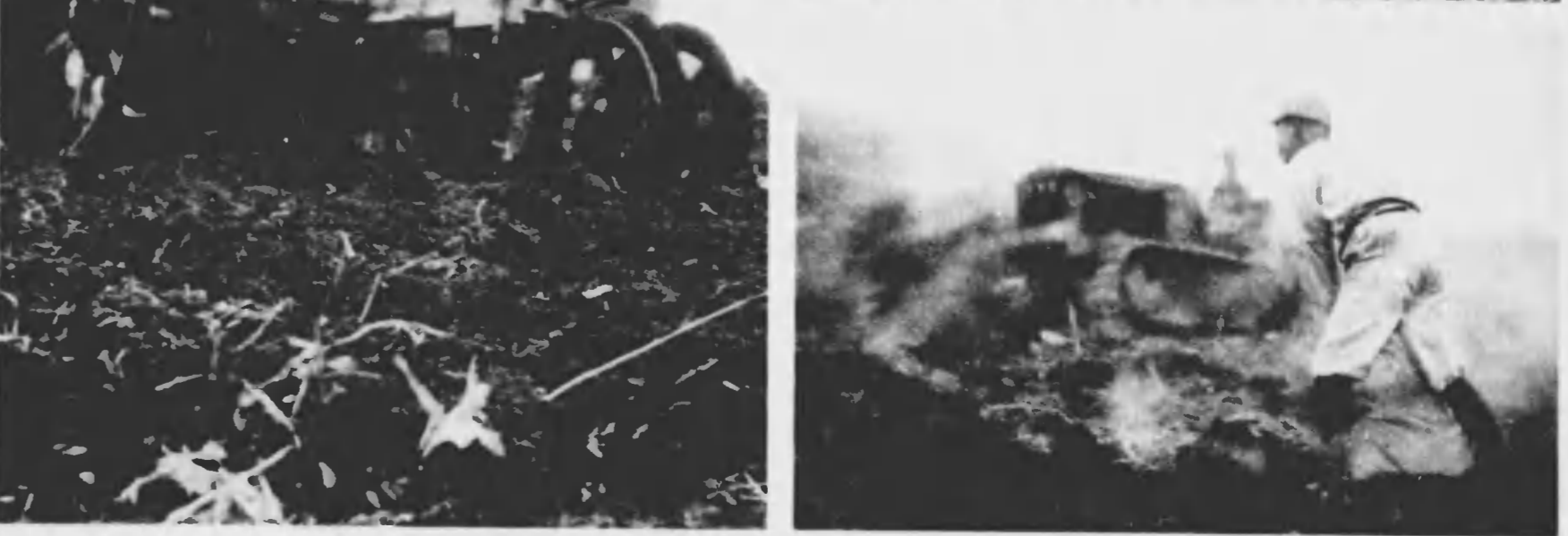
名譽の記念品を戴き雄列に戻る優秀生
心澄君



拓高平原

— 山梨縣中山湖畔 —

わが國の農産はこれまで低平地のみに集中され、全國に六十萬町歩も擴する高原の利用はほとんど顧られませんでした。そこで、この高原農地を開拓し、戦時下の食糧問題解決に協力しようと、こんど「高原開發協會」が生まれました。そして全國の高原地帯に呼びかけ馬鈴薯、大豆、玉蜀黍、麥などを栽培することになり、まづその手はじめとして山梨縣南都留郡中野村（富士山麓山中湖畔）にある百五十町歩の平野農場の竣工式を去る五月二十五日午後二時から各關係者多數参列のもとに盛大に挙行しました。



高に包まれた富士山麓を背景に舉行された竣工式

肥料を撒きながら播く肥料セメン・ハンドの中を耕すトラクター（右下）

労働者什隊の應援に開墾をいそぐ廣漠たる平野農場

開墾の新鋭機、トラクターが草原に出勤しました

戦争になりまして主要な食糧農産物の需要が急激に増加してきますと同時に、生産高を低下させる原因が多くなつてくることはこの國を例にとりましても同様であります。わが國でも食糧に不安なしといはれてゐましたが、必ずしも樂觀できない状態に立ちいたつてゐます。近代戦はむかしのやうな武力戦ではなく、國民こそつて戦ふ國家でありつて、高度國防國家の建設といふのがこの總力戦を完全に行ふことが出来るやうに國內の體制を整備することにはならないといふことは今更申すまでもありません。そして食糧の確保が國防國家建設には欠くことのできない最も大きな要件の一つであることもまたよくご存知のことです。

享けよ！大地の恵み

このためには國民の一人ひとりが食糧のやうに食糧の増産をしなければならぬことにはもろろ、これと同時にできる食糧の増産をたくさん増産する努力をしなければならぬのです。

わが國は、農業にかかるといふのは國の本なりといはれ、食糧その他の農産物を栽培し、人間生活に必要な物資を供給して、國家國民を養ひ、安心してその業にいそむることのできる農業とこれを「食糧」のこととしてこの國の本である自由經濟の時代にはとかく一般に知られ、物資が不足して始めてその有難味が知られてきた。つまり今日の非常時局に直面し食糧の確保が當面の急務となつて、農業が如何に大切なことかといふことがわかつてきたのです。

しかし、わが國の農業は、むかしから米作を中心として進歩してきたため、稲の栽培と水田の耕作にばかり注意が集中されてきたため、その耕地面積はわが國の總面積の十五パーセントにすぎない有様でした。しかもこの反面にわが國の人口は急増となり、今までの水田だけでは明らかに不十分となつてきました。そこで政府では今年から五箇年計畫を以て、二十萬町歩の田と三十萬町歩の畑の開墾を、いままで水田不便だった水田に對して水田を「旱田」に改作し、また病草や草害に對して牧草の多い品種の普及、さらに肥料改善等の方法を考へるなど食糧増産計畫を行つてゐることは、本誌でもたびたび申し上げたことでもありますが、この増産計畫は政府のかけ聲ばかりではなく、どうして一般國民である私たちが、相呼んで常に耕地を擴張し、大地に種を播かなくてはなりません。こんなわけでは、たとへば草原と化してゐる高原地の開墾にわが國もいよいよ乗り出すことになり、また、これはつまり私どもの努力次第で享けよ！と思はれる大地の恵みに與からうといふのです。

最近できた高原開發協會の調査により、標高五百メートル以上の高地で傾斜十五度以下の平川地が一箇所に五十町歩以上集り、しかも大規模農業機械馬を用ゐる耕作に適する土地は、全國に約六十萬町歩もあることがわかりました。今、わが國に東京附近にある高原開發に適する土地を群馬、長野、山梨、神奈川、静岡の

高原地の農法は？

各縣から拾つてみますと、約十五萬町歩の土地が知られます。これらの土地に三百町歩を第一の目標を定めれば約五百萬町歩を第一の目標とする、更に合理的な耕作によつて、穀類を育てれば、年二約四千万石の収穫をあげ、五百萬町歩を以てして二百萬石の収穫をうることに出来ます。

高原地帯は一般に氣候が寒くて農作物に大きな影響を與へたり、降雪時に土砂が下の農地を荒したりする原因で、今までも、とくに物理的な方がありました。が、最近のいふ／＼な科學的調査の結果をみますと、在り種を種、豆、蕎麥、粟、黍、燕麥、馬鈴薯、キャベツ、白菜などの栽培に適し、利用の大規模農業経営が第一に實行されてゐることがわかり、これに自然的な條件は、高原開發に協力する中野村等什隊の活躍の



高原開發に協力する中野村等什隊の活躍の

水上隣組

川田 陽・京東



撮影 鈴木 實

手旗がさつと振られると船首は、様々に右へ、田川には船が多い。衝突しないように水上警察署員の指導で交通訓練が盛然と行はれる

警官も交つてだるま船の上の隣組常會、物干の満艦飾が和やかな風景をつくる

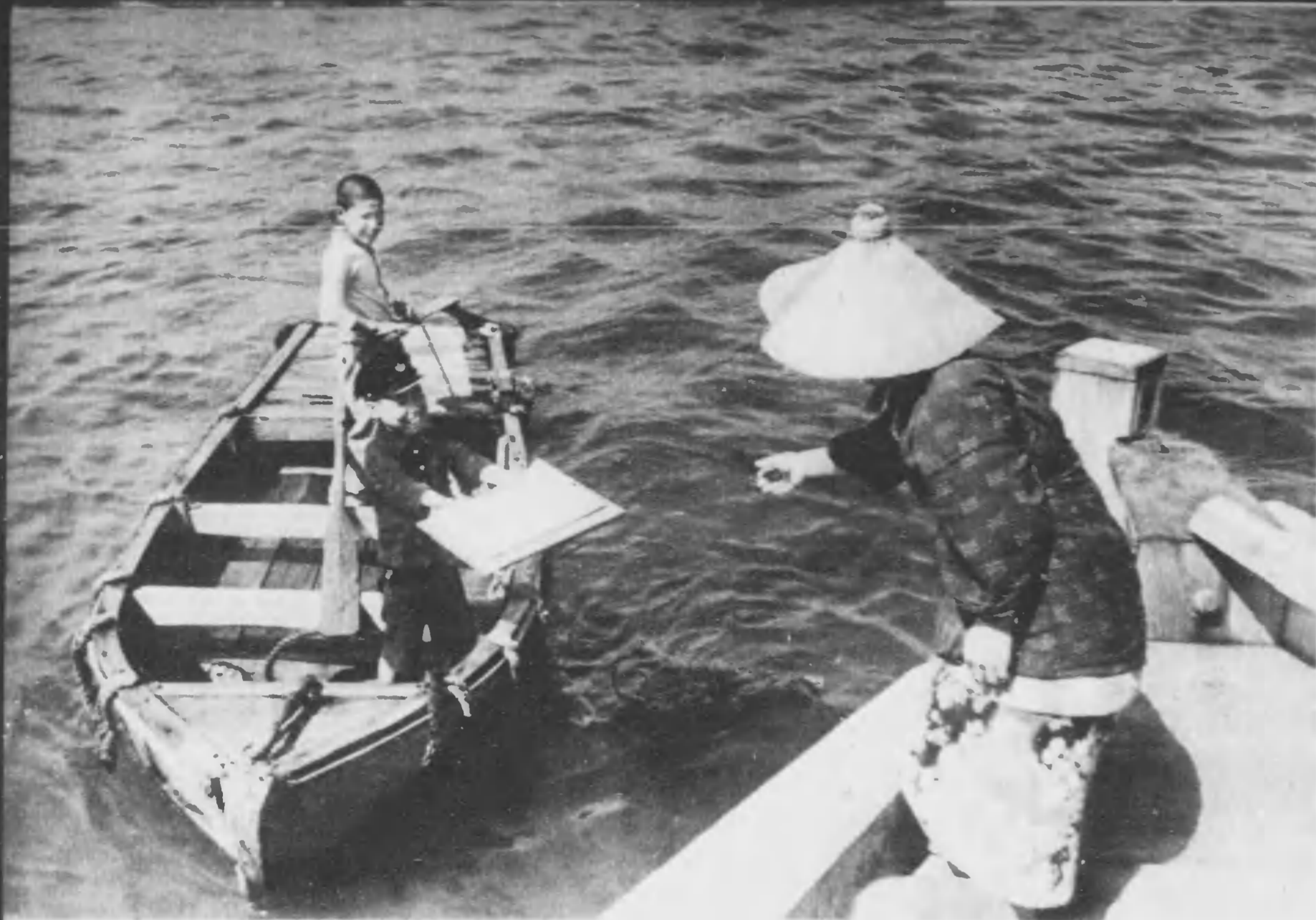
「小父さん乗つてつてくれよ」「健坊か、ようしいまゆぐぞ」国民学校からお船の家へ歸る兒童にその小父さんは心易く答へる



隣組の體制が國民組織の基礎として村に町に實運動の熱意を盛り上げてゐるとき、東京都下の水上に生活を営む五千近い世帯の船頭さんたちの間にも、こんど東京水上署のキモ入りで陸上に芳らぬ力強い隣組が結成されました
「板子一枚下は地獄よ、死んで花見がなるものか」船頭さんたちが折に觸れて唄ふこの古さびた歌の文句にこそ、もつともよくこの人たちの生活と感情とが表現されてゐる。といはれるやうに事實雨の日も風の日も冷たくとはばつた手に竹杵を握つて、輸送貨物の積揚に水上を西に東に漂泊する船頭さんたちの世渡りには、昔からの潤ひもなくまた変化も向うも見られませんでした。それだけ

に酒と博奕と、あげくの果には喧嘩の一つもしようといふのがいままでの船頭さん氣質でもあつたのです
それがこの水上隣組が組織されてからいままでの運習も目に見えて改められ、毎回會はず顔ぶれはちがつてゐても、移動する船から船には回覧板も廻されて、水上交通の整理に、切符制物品の配給に、さらに官公署通知の傳達に船頭さんたちの水上生活は全く面目を一新しました
かうしてとみに明朗さを加へた東京六十九河川

の川面にはいま舟楫の音も勇ましくこれら實運動の水上實踐部隊が活潑な往來を交はしてゐます



「小母さん回覧板たよ」
「ハイ、ハイ、御苦勞さん」
船から船へ回覧板は水を渡る

病む人たちのためには無料診察船が運船して救護の手をさしつづける
「さアもう一つ大きく息を吸つて、ハイよろしい」
かうして水上生活者に猛風を吹き飛ばす隣組は運送されてゆく

船頭さん仲間が昔から情義に厚い。喜びにつれ悲しみにつけ、義理人情のともづなはひかれて隣組の輪は清きつづける



サーチライトを照して水上を警備する東京水上署御自慢の警備艇さびひ



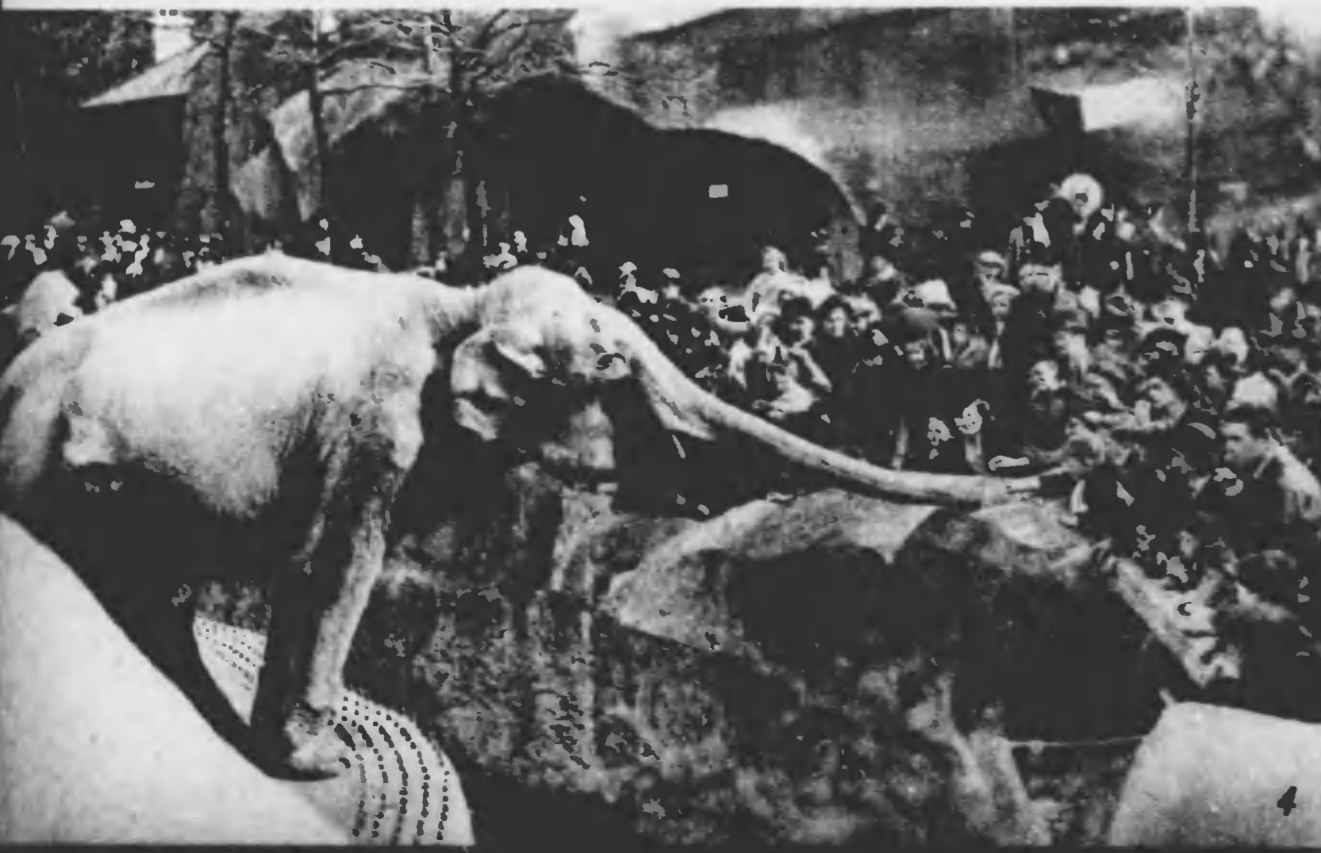
通信外海

フランス



- 1 一切はなくても、古洋服二着御持参の方には、一着新調の御着に懸けまなす。こんな看板がパリの洋服屋さんのショーウィンドに現はれました
- 2 フランスの若人は奮ひ立たねばならない。パリの失業青年二萬五千は市内七十二ヶ所の職業指導所で、近代工業の労働者としての再教育をうけるとになり、祖國の生産力復興をベタン元帥の像の前に誓いました
- 3 労働者の中でも機械工の養成は近代國家再建には何よりも急務です。フランスはなぜ敗れたか。國民に祖國愛が、國家に機械力が缺けてゐたためではないでせうか。フランスの青年はいまや一齊に立ち上らうとしてゐます
- 4 敗戦の創痛未だ癒えないパリではあります、但し、共に共にくぐりきた復活祭にはパリ人も久し振りに笑ひを取りもどし、市中到る所で和やかな情景が展開されました

- 1 これ、夏重ねてきた、半でもない。石炭不足に悩むオランダの家庭で考へ出した白いタンドン、つまり古新聞や雑誌を千切つて濾らし、固めて乾した代用燃料といふわけだ
- 2 さすがオランダはチューリップの本場です。優良種のチューリップをトク五芽のうち二芽を種につ、むけてまよ、立派な全網で花壇を取り囲んで大切にしておきます。戦争に負けた國のやうにさ見をまかせない
- 3 いくら戦敗國でも發育盛りの子供たちを食物不足で可憐にするアムステルダムはドイツ警察隊はオランダの子供たちを保護のせしめをばせたくないのでこのまじく救済に乗り出しました
- 4 この國でもガソリンは血の一滴から中々入手困難です。そこで失つた自動車を改造した街電のやうな昔ながらの馬車が街頭に結々御目見物し人々を呼んでゐる



オランダ



東京新聞 昭和七年十二月十七日 第四千七百七十七號

支那事變國債



六月二十日ヨリ
七月一日マデ

郵便局出售

大藏省・逓信省

内閣印刷局印刷發行

(列格報連・A4格規定圖はさき大の書本)